

石材墓石加工の信頼を、仏壇販売に活かす

光明堂・大神丸石材(倉敷)

大神丸石材は遡ると、倉敷市児島の沖合にある六口島(むくちじま)から切り出された石を運搬する仕事に先代が携わっており、そこから現在の墓石小売業に至っている。

ちなみに、六口島は徳川幕府によって行われた大阪城修築(1629完成)の時の石切場が残っており、今でも花崗岩が露出しているという。

大神丸石材の現社長である片山治氏は四代目で、今春四月に社長に就任した。三代目の片山定雄氏は会長に就任し、四代目を見守る。

片山社長は昭和五十年生まれで三十九歳。学校を卒業後は九州でコンピュータ関連の仕事な

どに就き、その後、倉敷の葬儀社で修業をした後に、大神丸石材に戻ってきた。元々の家業は石材加工であり、石材卸を長く行ってきた。そのために、石材加工工場の設備内容は充実したものだ。現在では石材・墓石小売りであるが、加工は自社工場で行うために「お客様の要望に細かく応えることができる」(片山社長談)ことが信頼を生み出す。

仏壇仏具部門の光明堂

は定雄会長の代にスタートした。主力としてきたのは22号クラスの唐木仏壇、そして金仏壇。唐木・仏壇に関しては、品質・素材に信頼のおける徳島の製品をお客様にお勧めしてきた。

「最近では小型化が少しずつ進み、家具調の製品も売れるようになってきた。同じサイズであれば家具調を選ばれるお客様も増えた」と語るが、変わらないのは品質へのこだわりだ。

片山社長は四国八十八カ所霊場会の公認先達で、お遍路用品も扱う。◎光明堂・大神丸石材 倉敷市児島通生二五五五 TEL〇八六(四七二) 〇〇五九 FAX〇八六(四七四) 三九二二



光明堂・大神丸石材の四代目社長片山治氏は四国八十八カ所霊場公認先達でもある唐木仏壇は徳島の厳選商品が主力 巡礼用品も揃える



仏壇部門・光明堂のアプローチにも石材製品が並び 光明堂と大神丸石材は道路を挟んでほぼ向き合う



大神丸石材の加工工場 石材の加工現場がお客様への信頼を生み出している